公募制自己推薦入試
過去問題
2025

建築学部

建築学科建築学系
建築学科都市生活学系

※問題は 2025 年度入試のものです。
※2026 年度入試の公募制自己推薦入試は、一部の学科のみ募集を行います。また、新たな入試として「総合型選抜(総合評価型)」を実施します。

KU 神奈川大学

〈N〉

建築学部　建築学科

管理番号：A-26

２０２５年度　神奈川大学　公募制自己推薦入学試験

【総合問題　（小論文またはデッサンのいずれかを当日選択）】

建築学部　建築学科（建築学系／都市生活学系）

［試験時間 90 分］

以下の A から D の問題の中からひとつ選択して答えよ。答えの前に、選択した問題の記号を書くこと。

A：小論文

古代ローマの建築家であるウィトルウィウスが「建築は強用美の理が保たれるように造られるべきである」と述べているように、一般に建築は堅固さ、機能性や快適性、美しさを兼ね備え、調和していることが求められる。一方、我が国の特殊性として、火山活動、地震活動や台風が世界でもとりわけ活発であることが挙げられ、これらの自然災害によって古くから尊い人命が失われている。

建築学を学ぼうとする者として、建築としての「強用美」を満足させつつ、自然災害に立ち向かう対策として考えていることを、1000 字程度の小論文としてまとめよ。

B：小論文

近年、地球温暖化が様々な面で顕在化してきている。夏季においては、温熱環境の悪化と共に、熱中症の問題や集中豪雨などによる災害が発生している。また、海面が上昇することによる陸地の減少や、気候変動による生態系への影響も懸念されている。その一方、技術の進歩により快適な環境は手に入りやすくなっており、人々の快適性への要求も年々高まりを見せている。

建築分野におけるエネルギー消費量や CO_2 排出量の削減と、建築における快適な環境の実現は、いかなる形で両立を図るべきか。あなたの立場を表明した上で、その理由や方法について、1000 文字程度の小論文としてまとめよ。

C：小論文

近年、地震や台風などの自然災害による難を逃れるために、住み慣れた住居から一時避難し、避難所などでの共同生活を余儀なくされることがある。普段とは異なる暮らしの環境に慣れることができず、身体的にも精神的にもストレスを感じる場合が少なくないという。自然災害がより身近となった現在、避難した人々が不安なく安全に生活できる場は重要である。

建築学を学ぼうとする者として、避難時の生活の場を計画する際に、どのような点に注意しデザインするべきだと考えるか。具体的な提案を含めて、1000 字程度の小論文としてまとめよ。

D：ドローイング（デッサン）

記憶に残る建築物（美術館、図書館、学校、オフィスビルなど）をひとつ挙げ、ドローイング（デッザン・作図）によって解答用紙いっぱいに表現せよ。ドローイングの内容は、外観や内部の様子、あるいは平面図など自由に考えてよい。複数の図を組み合わせてもかまわない。なお、その建物の解説（設計者、建設地、建築年代、建築用途、特徴など）を 100 字程度で用紙の下部に記述すること。記憶の正確さは求めておらず、実際と異なる部分があっても問題ない。できるだけ、その建物の良さや特徴が分かるように表現すること。